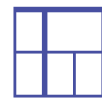


Toyota Municipal Museum of Art Press Release

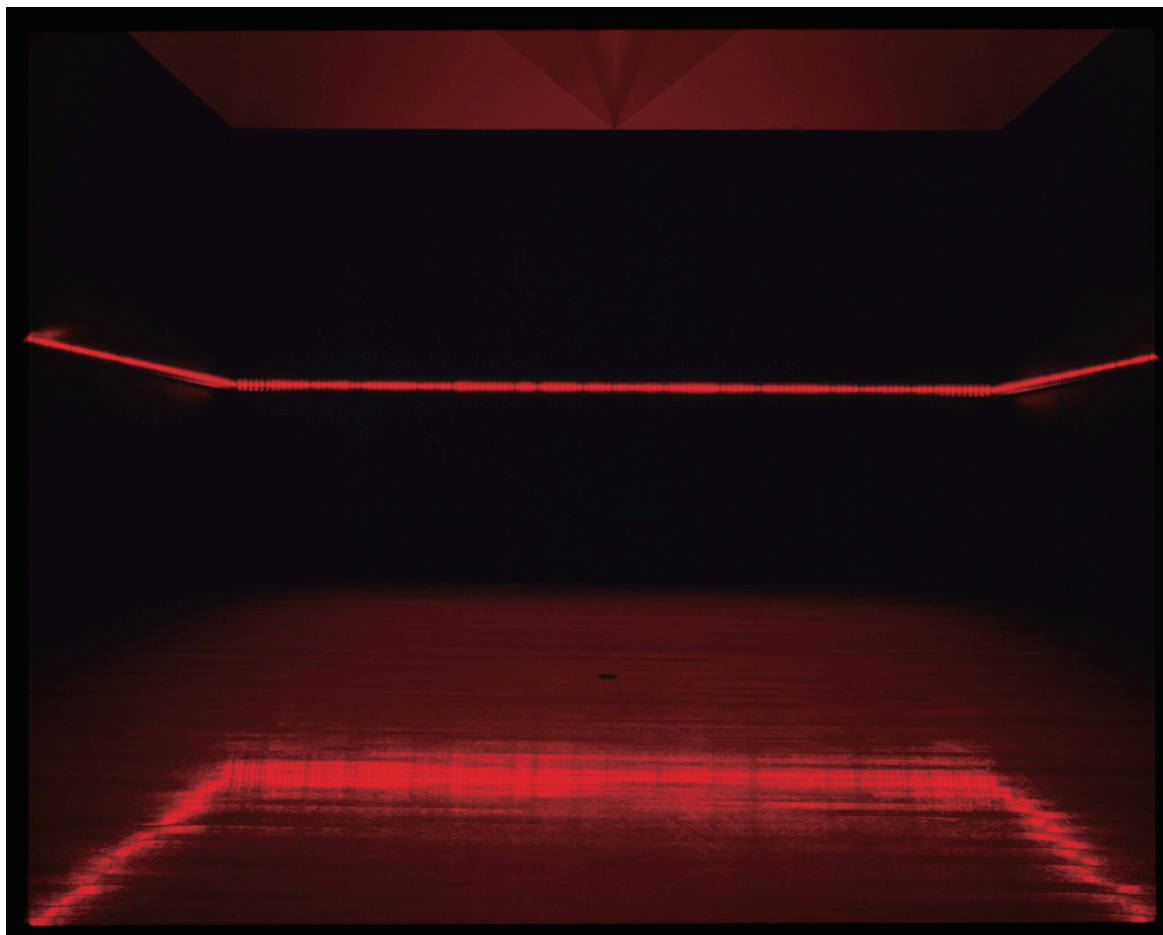
豊田市美術館 プレスリリース

2025.12.16



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



宮島達男《カウンター・ルーム》1989-96年 ©MIYAJIMA Tatsuo, 2026

開館30周年記念コレクション展 VISION 星と星図

第3期 星図Ⅲ：それぞれの実存

2026年1月6日[火]-3月15日[日]

開館時間： 午前10時-午後5時30分（入場は午後5時まで）

休館日： 月曜日（1月12日、2月23日は開館）

主催： 豊田市美術館

観覧料： 一般300円[250円]、高校・大学生200円[150円]、中学生以下無料

[]内は20名以上の団体料金。

*その他観覧料の減免対象者については、当館ウェブサイトをご確認ください。

開催趣旨

豊田市美術館は今年で開館 30 周年を迎えました。この節目にあたり、当館では、「開館 30 周年記念コレクション展 VISION 星と星図」を開催し、6 月から 3 月までの 10 カ月間を通してコレクションを見つめ直し、ここに新たな息吹を吹き込みたいと思います。

第 3 期では、始まりとなる展示室 1 において、1980 年代から 2000 年代にかけて、いわば豊田市美術館の開館前後に同時代的に活動を展開し始めた作家たちの作品を紹介します。展示室 2 で紹介するのは、1997 年に同室にあわせて展示収蔵され、実に 27 年振りに再展示となる宮島達男の《カウンター・ルーム》です。一方、展示室 3 では、今年度の新収蔵作品を既存のコレクションと組み合わせて紹介します。また続く展示室 4 では、平川紀道が豊田市美術館の過去の企画展に出品した作品を、改めてこの部屋にあわせて再インストールします。そして最後の部屋となる展示室 5 では、当館が所蔵する近代美術の作品を中心に、その戦後への展開も含めてご紹介します。

情報化社会、消費社会を迎えるなかで、大きくアートが変化していくのが 1980 年代です。もの派以降の作家として、岡崎乾二郎らが改めて造形の可能性を探る一方、関西では、森村泰昌や石原友明、中原浩大など「関西ニューウェーブ」と呼ばれる作家たちが、四角四面なこれまでのアートを脱臼するようなユーモアを備えた作品や、消費社会を背景に、私たちの日常から近い感覚を誘発する作品を展開して注目を浴びます。つづく 90 年代はバブルの残滓のなか、村上隆や小沢剛らが都市に介入したり、サブカルチャーを新たな創造の糧にしていくことになります。また大岩オスカルなど、次第に閉塞していく社会において自身の足場を見つめ、作品に転化していく作家たちも現れました。1995 年に開館した当館は、まさに同時代のリアルとしてこうした作家たちの作品を収蔵してきたといえます。そのなかで、若林奮のアシスタントを務めながら、鉄の彫刻にこだわり、そこに独自の軽やかさと繊細さを実現した青木野枝への目配りなどは、アートの別の連続性と多様性をうかがわせる当館らしい収蔵といえるでしょう。

80 年代に、デジタル・カウンターの作品で一躍注目された宮島の作品は、最新技術を用いながらも、一方で、人間の生や事物の存在という普遍的な問いを投げかけてきます。およそ 20 年後に制作された平川の作品もまた、現在の最新技術を用いながら、その主眼には、私たちの実存に迫ろうとの思いが認められます。それは、近代国家が成立するなか自我を問い、戦争経験を経て、いっそう切実に人間存在を問うことになった作家たちにも接続するものといえるでしょう。

個々の作品は、一つの星のように個別の性格を持った単独の存在でありながら、他の作品と関係し合い、像を結ぶことによって、複雑で豊かな星図を描き出します。展示室を行き来するなかで当館コレクションの豊かなバリエーションをご覧いただき、時代や場所を越えて共有される複数の思考の連なりを実感していただければと思います。

展覧会の見どころ

1 当館開館年の前後に制作された作品群を紹介

中原浩大や小沢剛、大岩オスカルや青木野枝など、1995 年に開館した当館にとって、まさに同時代のリアルとして収蔵した作家たちの作品を紹介します。

2 宮島達男《カウンター・ルーム》の再展示

1997 年に展示して以来、実に 27 年ぶりの再展示となります。発光ダイオード（LED）の光で、1 から 99 までの数字を刻み続けるデジタル・カウンターは、最新テクノロジーを使いながら、人間や事物の生という根源的な問いに接続し、私たちの心理に強く迫ってきます。

3 新収蔵品展示

今年度新たに収蔵した作品を、既存コレクションと合わせて展示します。作品が常に新たな解釈の可能性に開かれていることを示す機会となっています。

4 平川紀道インスタレーション

昨年度寄贈を受けた平川の作品を、展示室4にあわせて展示します。大がかりなインスタレーションをこの機会にぜひご覧ください。当館および豊田市内の各所で撮影した映像を用いた作品もあわせて展示します。

5 近代美術と戦後美術

豊田市美術館が所蔵する近代美術の作品は、人間の実存や世界の根源に触れるような選りすぐりのものです。それらを今一度ご覧いただくと共に、当館の戦後美術へとつながる流れをご紹介します。

展示点数

約 100 点

関連事業

講演会や作家トークを予定。詳細は決まり次第、当館 web サイト、SNS 等でお知らせします。

お問合せ

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

HP:<https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

●展覧会に関すること

学芸担当：千葉

Tel 0565-34-3131

●掲載依頼・取材等に関すること

広報担当：西本、籠谷（こもりや）

Tel 0565-34-6748

開館30周年記念コレクション展 VISION 星と星図
第3期「星図Ⅲ：それぞれの実存」 広報用画像について
広報用画像について



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

当館ウェブサイト「広報用画像ダウンロード」申込みフォームより、ご希望の画像を申請してください。
「広報用画像ダウンロード」の画像提供サービスは、パソコンでのみダウンロード可能となります。
パソコンからのお申し込みが難しい方は、以下を記入のうえ、Fax(0565-36-5103)でお送りください。

お名前 様 ご所属

Tel Fax

e-mail 必要な画像の番号

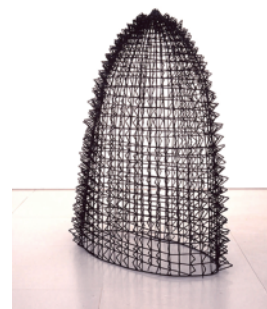
掲載紙／メディア名 発売、放送予定日 月 日(月号、vol.)



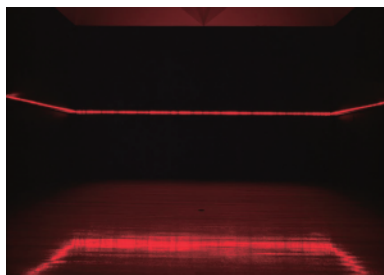
1



2



3



4



5



6

- 1 中原浩大《無題（レゴ・モンスター）》1990年 ©NAKAHARA Kodai, 2026
- 2 石原友明《I. S. M. (H)》1989年
- 3 青木野枝《Untitled》1984年
- 4 宮島達男《カウンター・ルーム》1989-96年 ©MIYAJIMA Tatsuo, 2026
- 5 アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》1954年
- 6 岸田劉生《鯨坊主》1922年

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮いただき、所蔵先、クレジットも表示してください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。
- ・情報掲載後、献本または情報公開後の報告をお願いします。
- ・本展の紹介でのご使用後は、各メディアの責任のもと画像データを削除破棄してください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 ☐画像送付 ☐校正 ☐修正 ☐配信・配本